海外出張報告：イギリス、アイルランドにてCCSおよび微細藻類に関する情報を収集

世界のトレンドを肌で感じた12日間

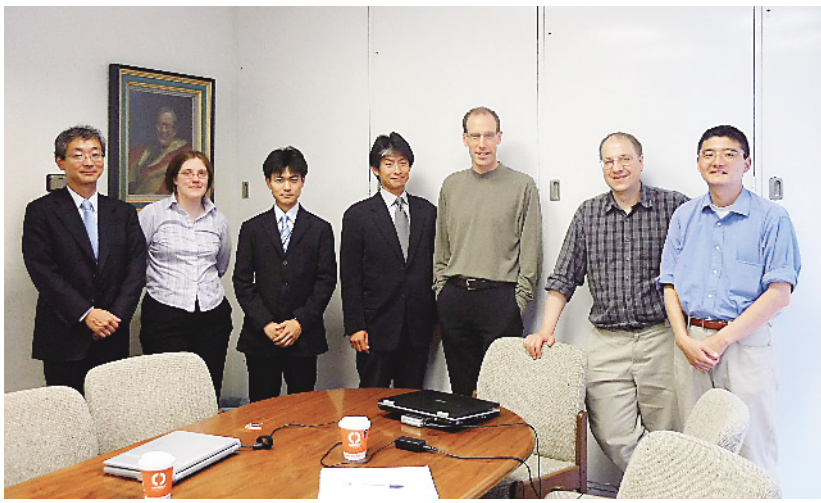
電力技術研究所CO_2削減技術グループでは、平成20年6月18日から29日にかけてイギリスおよびアイルランドへ出張し、CO_2削減に関する世界的な技術動向について情報を収集しました。

まず、イギリスではインペリアル・カレッジ・ロンドンのギブンズ博士やカルガリ大学のキース教授らとともに、CCS(※1)に関する技術的課題や今後の動向について情報を交換しました。両氏によると、英国におけるCCSは国民のコンセンサスを得ることが困難である一方、次世代の産業の一つとする積極的な動きがあり、我が国とは異なった状況にあることが分かりました。

また、後半のアイルランド・ゴールウェイ大学での国際応用藻類学会(※2)では、藻類を活用したCO_2吸収に関する世界各国の研究について幅広く情報を収集しました。昨今、CO_2吸収はこの分野の研究のトレンドとなっており、当社の研究開発の方向性と合致していることが分かりました。

今回の海外出張では、世界各国の研究者との交流を通じてネットワークを形成することができました。今後はこの人的つながりを活用し、情報収集や研究業務に役立てていきたいと考えています。

※1：Carbon dioxide Capture and Storage（二酸化炭素回収・隔離）
※2：3年に一度開催される藻類に関する世界的な学会



インペリアル・カレッジ・ロンドンでの情報交換出席者

技術開発本部 エネルギー応用研究所で農業電化に関する意見交換会を開催

資源高騰受けコスト低減技術に注目

7月18日愛知県農業経営士協会岡崎額田分会の24名がエネルギー応用研究所に来所され、農業分野の電気技術の利用について意見交換会を行いました。昨今の原油高騰から温室内暖房用のA重油価格が上昇しており、栽培コスト低減につながる農業電化研究に取り組んでいる当研究所の情報を参考にしたいとの希望から開催しました。

当日は、お客さま技術グループの宮田副主査がエコキュートをモデルにヒートポンプのしくみを説明し、高効率技術であることを理解いただきました。次に農業分野へのヒートポンプ適用研究として、バイオ技術グループの守谷副主査がバラ栽培での冬季暖房コストの低減効果や夏季の夜間冷房による品質の向上について講演しました。

農業経営士からは、ヒートポンプの導入費用や温度管理方法など具体的な質問が寄せられ、また植物の栽培に使用する人工光源についても白熱球が近く生産中止となることから、新たな光源としてLEDの導入や利用方法についても意見交換を行い、農業経営再生に電化への期待が感じられました。

今回のお客さまからのご意見は、研究内容へ反映させていきます。

講演を聴く農業経営士のみなさん